

ニと握りまくる。

「あ・・・あ・・・あん・・・乳首・・・」パイ揉みで感じ出すルーベル。と、同時に、横になったルーベルの上にある方の足が、自然と上がっていく。

「そうそう、彼氏さんにもよく見えるようにね」

早く入れて欲しい！ということなのだろうか・・・。ルーベルの足が上がり、ベチヨヌルヌルのオマンコが露わになる。

「いひひえへへ」メルシエは左手の中指でゆっくりとルーベルのオマンコの脇からクリトリスにかけて撫でまわした。

「ああんくう」ルーベルはイヤライシ声を漏らしながら、

「ぴちゅぴちゅ」とオマンコからマン汁を溢れさせている。

「興奮してきちゃったあチンポこんなになってるよ」

メルシエはデカチンをビクンビクンと跳ねさせ、俺にデカチンを見せつけてくる。

俺との格の違いを見せつけるつもりなのか、これ見よがしのデカチンアピールだ。

「さあ、ルーベルちゃん。彼氏さんに宣言しないとね」

「ああんエクセリオン・・・しっかり見てねわたし・・・頑張るわ」

「よく言えましたほれほれ」

今度は、指ではなく自分のデカチンをオマンコの入り口やクリトリスに擦りつけ始めるメルシエ。数秒でデカチンはヌルヌルのマン汁まみれになった。

「ああそれ、気持ちいい」のけ反って舌を出すルーベル。と、次の瞬間、

「ごつめーんもうガマンできませーん」

「ずつぶうん」いきなりデカチンを挿入するメルシエ。

「おほおおお、お、お、おとおおん」いきなりの挿入で感じまくるルーベル。

「どっちゅどっちゅどっちゅどっちゅどっちゅどっちゅ」逞しいメルシエの腰振り。

「おおうほおおおチンポ・・・硬あいいいい」

「おうナカ・・・ヌルンヌルンゴム越しでもムツチャ気持ちいい」

ルーベルのオマンコはぶつといデカチンをしっかりと啜え込んでいる。メルシエが腰を動かすたびに、オマンコからはプシュプシュとハメションが漏れ飛んでいる。

「ああ・・・うおお・・・」

すでに俺の貞操帯の先の穴からはガマン汁が溢れている。

「先輩ったら、興奮しすぎチンポ、ビクビクさせちゃって」

「ふふふ、彼氏さん、よく見てね彼女のドエロいオマンコ！」

そう言うと、メルシエはルーベルの太ももを抱え込んでさらに見えやすいように位置をずらした。

「ズ！ズッポハツメえ・・・ズッポハツメえ・・・ズズズ！・・・ズッコお」意味踏不明な声をあげて興奮しまくる俺。

「どうよ？ルーベルちゃんボクのデカチン、気持ちいい？」

「はぁいいい♥きんもちいいですう♥お、お、奥に当たって・・・上のところ・・・擦れてえ♥・・・あんあんあん♥そこっ・・・そこお♥」
のけ反って舌を出し、アクメをキメまくるルーベル。ルーベルってこんなにエロかったのか、と思ひ知らされてしまう俺。

「どっちゅん♥どっちゅん♥どっちゅ♥どっちゅ♥」遅しいズボハメ。

「あああ♥もう・・・ガマンできない・・・ボクも・・・イク!」

「イツてえ♥一緒にイツてえ♥」絶叫するルーベル。



「あ!出るうう♥・・・ドピュ♥ドピュ♥ドピュ♥ドピュ♥ドピュ♥・・・」

「くわあ♥!」大きくルーベルは叫ぶと、「ぶりん♥」と例のごとくチンポをオマンコから吐き出し、「ぶしゅっ♥ぶしゅっ♥ぶしゅっ♥」と潮を吹いた。

吐き出されたデカチンは、コンドームの中で射精しているのだろう、コンドームの先が大きく膨らんでいく。